

1 目的

曾於郡大崎町は、温暖な気候を活かし、マンゴーやパッションフルーツなど、ハウスでのトロピカルフルーツ栽培が盛んである。また、本町は「食」でもてなす「陸上競技の聖地」実現プロジェクトに取り組んでおり、今後、交流人口の増加が期待されるなど、本町の農畜産物を消費者にアピールする絶好の機会がある。そこで、これらの強みと機会を活かし、第3の“新”特産フルーツとしてマンゴーなどと同じ熱帯果樹であるパイナップル栽培の可能性を検証し、地域への波及も期待して実証に取り組むこととした。



写真 1 定植作業

2 実施状況

(1) 栽培実証

次年度に計画している消費者への食味アンケートや、道の駅、産直市などでの試験販売に向けてパイナップル苗を平成29年12月7日に68株定植した。



写真 2 栽培の様子

(2) 先進地事例調査

平成30年2月20日～22日、パイナップルの国内生産を一手に担う沖縄県で先進地事例調査を行い、現地青年のパイナップルほ場及び沖縄県農業研究センター名護支所で栽培管理技術等について情報収集した。特に、苗の増殖法について学べたことは、今後の課題と考えていた苗の安定確保に向けて大きな成果となった。

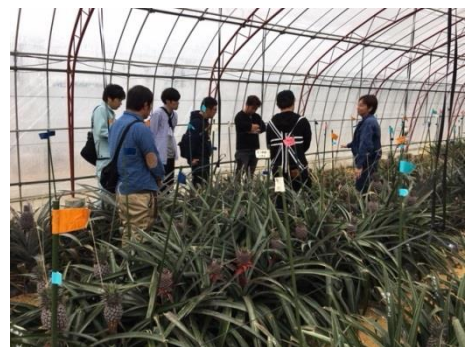


写真 3 先進地事例調査

(3) 地域への活動紹介

本活動について、平成29年度曾於地区青年農業者会議（参加者77名（うち農業者41名））でプロジェクト計画を発表した。

3 今後の課題、取り組み

- ・次年度に収穫できるパイナップルは確保できたものの、当初計画していた沖縄県からの苗の導入ができず、約1/3の植栽となり、安定的な苗の確保が課題となった。先進地事例調査で苗の増殖法を学ぶことができたので再度、苗増殖に挑戦する予定である。
- ・次年度は、栽培実証を継続するとともに、地元のお祭りで消費者への食味アンケートや、道の駅、産直市などで試験販売を行いながら、販売価格の把握と設定及び販路の確立等を検討する。



写真 4 計画発表